

臍、氣味、主治、與肉肪同、源順曰、唐韻云、臍、臍、倫反、鳥藏也、漢語抄云、無無木、必大按、是今毛介也、考、字皮紅、肉青、其形圓、恐是臍、平、或謂心腎亦佳、味甘、不苦、硬、固、與肉殊、臍之有聲、此亦鳥腹中之佳味也、

〔食物和歌本草二〕鴈

鴈はよく陰陽升降するゆへに秋は南へ春北に行 鴈はよく丹石の毒解する也中風手足の引つるによし

〔食物和歌本草七〕鵠

鵠は小兒の疳に藥なり氣力をもます臟腑をも利す 鵠を多く食すな血熱し年月食し癩風をやむ

雁雜載

〔萬葉集十〕詠鴈

野干王之夜度鴈者幾夜乎歷而鹿己名乎告

〔萬葉集十五〕引津亭船泊之作歌七首

安麻等夫也。可里乎。都可比爾。衣氏之可母。奈良能彌夜古爾。許登都礙夜良牟。

〔萬葉集十九〕見歸鴈歌二首

燕來時爾成奴等。鴈之鳴者本鄉思都追雲隱。 春設而如此歸等。母秋風爾黃葉山乎。不超來有米也。

〔伊勢物語上〕

むかし、男むさしの國までひありきけり、その國なる女をよばひけり。○中 母なんあてなる人に心つきたりける。○中 此むこがねによみてをこせたる、すむさとはむさしのくにいらるまのこほり、みよしの、里なり、みよしの、たのむのかりもひたぶるに君がかたにぞよるとなくなる、かへしむこがねかへし。